シンポジウム報告要旨(平成23年3月1日)

生態系保全活動と地域農業との共存 - 北海道根釧地域の事例から-

基調講演 原 剛氏[農林水産政策研究所客員 業等の寄付金等で支えられており、行政から 研究員(早稲田環境塾塾長)〕

第一報告 杉戸 克裕(農林水産政策研究所主 発展しています。 任研究官)

究員)

保全活動と地域農業との共存を基本的テーマ ることの重要性が指摘されました。 として開催しました。

ムはこうした活動に着目したものです。

んでいる人や、農業生産、食品安全等に関心 示が行われました。 副会長が北海道から急遽かけつけていただく にお話しをいただきました。お話しの中で、 ました。

しをされました。

水田を例にとりつつ、日本での農業と環境 その後、参加者からの質疑・応答へと移行 の深い関係について話された後、虹別コロカ し、環境運動の実践のあり方等について、活 ムイの会の活動の特色についてスライドを用 発で、内容的にも具体的な意見交換が行われ いた説明がありました。

虹別コロカムイの会は、1994年に、シマフ 本シンポジウムが、生態系保存と地域農業 有志が樹木の植替えを行うという事業から始 への取組に向けて、何らかのヒントまたは参 まりました。その後、「村の守り神」(シマ 考となることを願っているところです。 フクロウ) に戻って欲しいという願いで、流

域全体の住民を巻き込んだ活動へと発展し、 現在では植樹祭ははじめとした多くの取組が 行われています。同会の活動は、篤志家、企 の補助金はない地域住民の自発的事業として

続いて、杉戸克裕主任研究官から、「住民 第二報告 田中 淳志(農林水産政策研究所研 参加型の生態系保全活動と大規模農業との連 携による地域活性化に向けた課題」というテ ーマでの報告がありました。同報告では、生 豊かな環境を維持しつつ、持続可能な農業 態系保全に関する酪農経営者の対応について、 を営むことが、21世紀日本農業の健全な発展 個別農家の調査結果に基づき、農家経営の観 にとってますます重要となっています。本シ 点を含めた分析結果が紹介されました。また、 ンポジウムはこうした問題意識を背景に、北 こうした分析結果等を踏まえつつ、今後、シ 海道根釧地域の事例を取り上げつつ、生態系 マフクロウをシンボルとして農村活性化を図

最後に、田中淳志研究員から、「西別川流 域における河畔林造成活動を通じたシマフク 北海道根釧地域では、絶滅危惧種であるシ ロウ保全活動」というテーマでの報告が行わ マフクロウの保全のために、地元有志によっ れました。同報告では、シマフクロウ保全に て設立された「虹別コロカムイの会」を中心 は河畔林の回復が極めて重要であるという観 として、行政、農漁業者等の協力も得ながら、 点から、河畔林の回復についての現地での取 活発な取組が行われています。本シンポジウ 組の経緯、状況等についての詳細な報告が行 われました。さらに、今後の河畔林造成活動 本シンポジウムには自ら環境問題に取り組 の課題ないし解決すべき問題点についての提

を持つ人等の多彩な顔ぶれの参加があり、ま 以上の3人の講演・報告の後で、せっかくの た、虹別コロカムイの会の舘会長および鳴川 機会でもあり、虹別コロカムイの会の舘会長 など、開始前から会場は熱気あるものとなり 同会の活動を支えていただいている人に対す る謝意があらためて示されるとともに、同会 基調講演では原剛早稲田環境塾塾長が『シ の設立の経緯や活動ぶりについてユーモアを マフクロウの森から共生の大地へ-環境が 交えた紹介がありました。また、植樹活動に 「農・林・漁」を繋ぐー』というテーマで話ついては、100周年を迎えるまで継続して実施 していきたいとの抱負が語られました。

ました。

クロウの生息に必要な河畔林の回復のために の共存という今後とも尽きることのない課題

(文責:河原昌一郎)